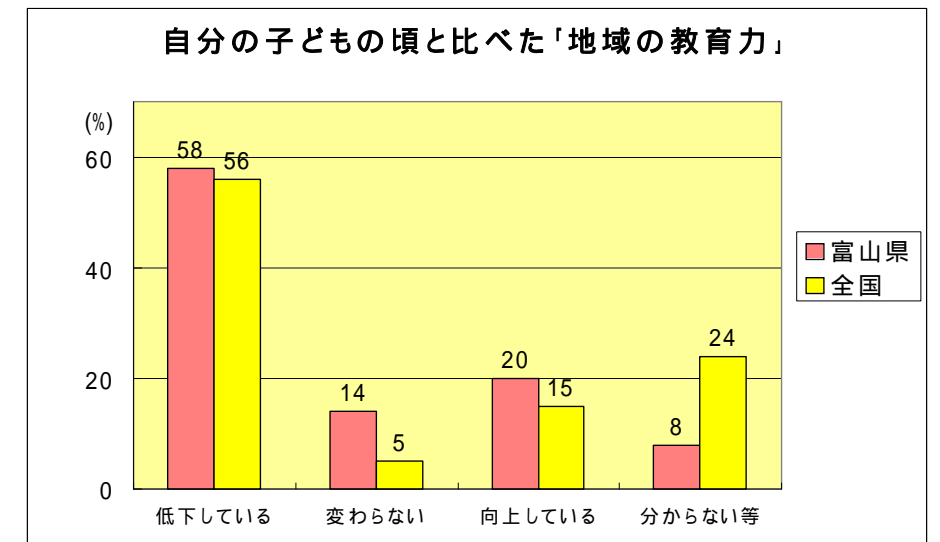


2 地域における子育て支援

	現状と課題等
子育てを支援する団体等の活動の促進	<p>子育て支援サービスに関する調査によれば、身近で利用できれば良いと思うサービスは、1位:子育て中の母親が集うサークル、2位:子育てについて相談に乗ってくれる専門のアドバイザーである。(H19県調査)</p> <p>地域子育て支援センター等を拠点に活動する子育てサークルは増加傾向にあるが、活動の場所や活動費の確保、情報収集や地域に向けた発信、地域の関係団体や行政との連携などに課題を抱えている。</p> <p>地域における子育てサークルや団体の立ち上げを支援するとともに、効果的に活動できるよう、情報提供や各種子育て支援団体等の情報交換を積極的に行い、連携強化を図る必要がある。</p>

県の主な取組み
<p>シニアや団塊の世代などの経験やノウハウを子育て支援に活かしてもらおうシニアサポート事業を平成19年から実施(シニアサポーターH21:555名)</p> <p>子育て支援センターや子育てミニサロン等の職員を対象とした、子育て支援ネットワーク会議や研修会の開催</p> <p>「子育てネッ! とやま」のホームページや家庭教育かわら版(年3回、各70千部発行、幼稚園、保育所、小学校1・2年生の子どもを持つ家庭対象)などによる子育てサークルの活動紹介</p> <p>県児童クラブ連合会が実施している宿泊体験活動事業や県母親クラブ連合会が実施する親と子のふれあい講座事業の支援</p> <p>児童の健全育成の向上を目指した、児童クラブ指導者養成事業の実施</p> <p>学校安全パトロール隊の全小学校区への設置と活動の支援</p> <p>安心子ども基金を活用した地域の子育て支援活動の取組みを支援</p>

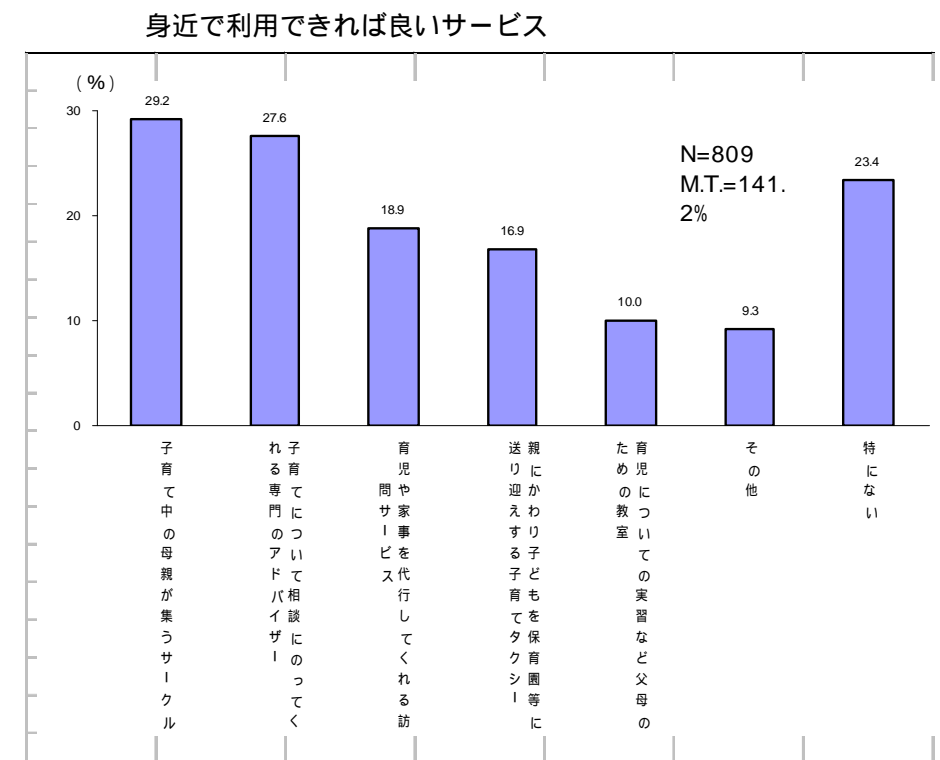


【資料】 富山県地域活力再生運営協議会「平成19年度「地域の教育力」に関するアンケート」
 【資料】 文部科学省委託日本総合研究所「平成17年度「地域の教育力に関する実態調査」】

3 生活環境の整備

安全な子どもの生活環境の整備	<p>小学生以下の子どもに対する不審な「声かけ事案」の発生件数が平成16年をピークに減少していたが、昨年度は増加に転じた。子どもの危険予測、回避能力を高める安全学習、安全指導の効果的な進め方を推進する必要がある。</p> <p>通学・通園時の交通事故が多く発生(中学生以下)していることから、毎日通学する通学路を安心して歩けるように、整備を進めていく必要がある。</p>
----------------	---

<p>児童生徒の防犯教室の開催、通学安全マップの作成など、自分の身を自分で守るための実践的な安全教育の推進</p> <p>ゆとりある歩道の確保、安全に通学できる歩道の新設・改良、事故多発箇所の集中対策など、人にやさしい安全な道づくりの推進</p> <p>歩行者と自転車の錯綜を解消するための自転車専用通行帯の整備</p>
--



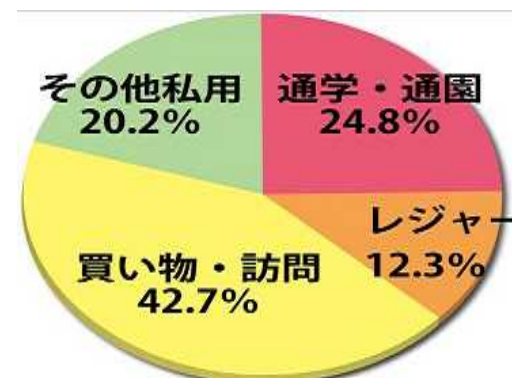
【資料】 富山県知事政策室調査「平成19年 子育て支援サービスに関する調査」】

時間帯別死傷者数(中学生以下)

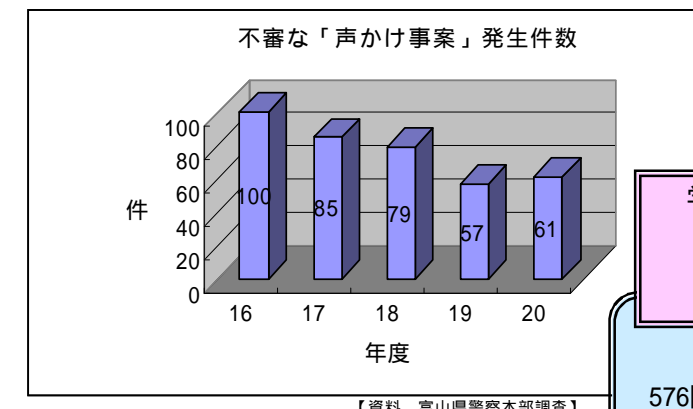


【資料】 富山県警察本部 交通事故白書(平成18年版)】

通行目的別死傷者割合(中学生以下)



【資料】 富山県警察本部 交通事故白書(平成18年版)】



【資料】 富山県警察本部調査】

<p>学校安全パトロール隊 (全小学校区に設置) 491隊 約38,500人 (H21.4)</p>
<p>民間パトロール隊 576隊 約38,000人 (H21.5)</p>